

<b>課題名</b>	マウス個体で機能するタンパク質分解デグロンシステムの技術開発
<b>課題管理者</b>	相賀 裕美子 国立遺伝学研究所 遺伝形質研究系
<b>実施期間</b>	2019 - 2020 年度
<b>概要・実施体制</b>	マウス個体で機能するデグロンとそれを認識するユビキチン分解カスケードの最適化を目指す。具体的には、培養細胞で最適化されたオーキシン反応性 TIR1 変異体及び、デグロン付加レポーターをマウス ES 細胞の Rosa 遺伝子座に相同組換により導入し、レポーターES 細胞を構築する。ES 細胞にオーキシシアナログを投与して、レポーターの反応性を確認後、この ES 細胞を用いてキメラマウスを作成する。キメラの各組織を採取し、培養系を展開する。細胞にオーキシシアナログを添加しタンパク質分解誘導及び、その可逆性を検討する。また、キメラ妊娠個体にオーキシシアナログを投与し、母体及び胎仔への安全性確認とキメラ個体におけるレポーター発現変動の解析を行う。
<b>成果</b>	